取組の手法⑤-a：地元住民による主体的取組を促進する仕組みや体制づくり

四万十川流域（高知県四万十町）

基本情報

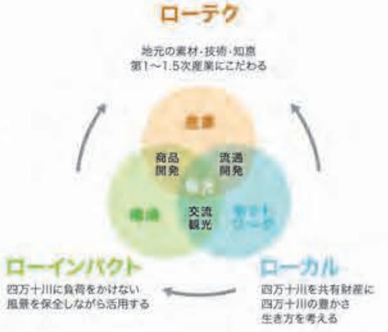
所在地		四万十川流域（高知県四万十町）
主な取組内容		川や自然環境に負担をかけないモノづくりで地域の生業を再生
実施体制	中心的主体	（株）四万十ドラマ
	連携主体等	地元の農林漁家、地元住民、四万十町役場
生態系タイプ分類		シイ・カシ萌芽林
地域区分		中山間地
環境タイプ		二次林、河川

取組内容

高知県四万十町に本社を置く（株）四万十ドラマは、四万十川中流域の旧大正町、旧十和村、旧西土佐村が出資する第3セクターとして平成6年に発足し、地域の農林産物を使った特産品開発・販売や情報発信などを行ってきた。平成17年には完全民営化して株式会社となったが、現在も地域住民が株主であり、地域の環境・産業・ネットワークに支えられたコミュニティビジネスを展開している。

（株）四万十ドラマは、「四万十川に負担をかけないものづくり」という理念のもとで、「ローカル」「ローテク」「ローインパクト」をコンセプトとして、地域の山の恵み、川の恵みが存分に詰まった約30種類の独自商品の開発・販売や、四万十川の魅力が詰まったツーリズム事業などを展開している。

（株）四万十ドラマは、自ら生産を行うのではなく、地元の農林水産業者と連携した商品開発・販売や、外部との交流や情報発信など役割を担うことにより、「地域の内外を結ぶネットワークの核」となることで、持続可能な地域資源の活用による活性化に大きく貢献している。



<（株）四万十ドラマの事業内容>

物品販売：地元の農林業の素材にこだわります
商品開発：四万十川に負担をかけないものつくり
道の駅運営：道の駅四万十とおわの運営/通信販売
観光交流：会員制度RIVERを中心とする全国の都市と地方の交流
ノウハウ移転：四万十ドラマの実績・経験にもとづく他地域の支援

取組の特徴

POINT 1 地元住民による自然資源活用への動機付けと支援

地域の「天然モノ」の発掘と地元農林漁家・住民へのアイディア提供による商品開発

（株）四万十ドラマは、自らを「「考え方」をつくる会社」と銘打っている。これは、自ら生産を行うのではなく、「四万十川に負担をかけないものづくり」という理念にもとづいて地域資源を発掘し、それを基に地元の農林漁家と共同で商品を開発し、四万十ドラマが外部への販売や情報発信を担うという、企業の姿勢を表している。

（株）四万十ドラマは、協力関係にあるデザイナー（梅原真氏、迫田司氏）と連携しながら、地域の農林水産物や人材が持つ可能性や、それらの活用による地域課題の解決の可能性を見出し、農林漁家や住民にアイディアを提供することにより、地元の「天然モノ」にこだわった数多くのユニークな商品を開発してきた。

主な商品と地元農林漁家・住民との共同開発の例

商品名・写真	地元農林漁家・住民との共同開発の例
四万十ひのき風呂	・四万十川流域は古くからのヒノキの産地であるが、林業の不振によって資源として利用されなくなっていた。 ・そこで、環境の視点を盛り込んだ商品として、ヒノキの間伐材や端材をカットしてヒノキ油をしみこませた入浴剤「四万十のひのき風呂」を開発し、平成9年に販売を開始した。これは（株）四万十ドラマによる商品開発第1号であった。
しまんと緑茶・焙茶	・霧が深い四万十町は品質の良い茶の産地であるが、かつては静岡県に出荷されて他の産地のお茶とブレンドされ、「静岡茶」として販売されていた。 ・広井茶生産組合代表の岡峯氏は、何とか四万十のブランドで販売したいと考え、（株）四万十ドラマと共同で茶生産農家への働きかけと商品開発に取り組み、平成13年にペットボトル入りの「しまんと緑茶・焙茶」の発売を開始した。
シマント ウォンテッド ジャーキー	・シカやイノシシによる農林業への被害に立ち向かうため、平成15年に猟友会の猟師、農家、主婦が集まり、「害獣を益獣に」をスローガンに駆除肉（鹿、猪）を活用に取り組む「しまんとのもり組合」が設立された。 ・（株）四万十ドラマは、しまんとのもり組合の取組に協力し、調味料を含めて全て四万十産の材料を用いた「シマント ウォンテッド ジャーキー」を開発した。

POINT 2 地域の内外から理解と協力を得るための情報発信

企業理念の外部発信と内部へのフィードバックによる「人のネットワーク」の形成

（株）四万十ドラマを成長させた重要な要因として、「人のネットワーク」の形成に力を注いだことが挙げられる。

会社の創設期に、協力関係にあるデザイナーの梅原真氏の全面的な協力を得て、四万十川流域の魅力と四万十ドラマの企業理念の発信を目的とした会員制度「RIVER」の設立や、著名人が四万十川の魅力を語った「水の本」の出版によって積極的に情報を発信し、全国各地に「四万十ファン」のネットワークが生まれた。

このような情報発信がマスコミによって話題を呼び、また、企業理念を体現した商品が売れ始めたことによって、当初は地域資源の価値や魅力に気付くことがなかった地元住民の理解と協力が大きく促進された。

なお、会員制度「RIVER」は、平成22年9月よりNPO法人化され、四万十ドラマとは別個に運営されることになったが、「四万十川を中心に【ユタカサ】を考える」という当初の姿勢に変わりはない。

水の本

取組の成果

- (株)四万十ドラマの売上額は、平成7年度の約1,000万円から順調に増加し、平成22年には約3億5千万円にまで成長している。商品が売れることにより、農林漁家の収入や生産意欲が向上している。
- 地元産にこだわった農林水産物の商品開発・販売やエコツーリズムの取組を通じて、古くから四万十川流域で培われてきた人と河川・森林とのつながりの文化や、それが育んできた美しい風景が見直されている。
- 現在は20人の従業員(パートを含む)を雇っており、地域資源の持続可能な利用による雇用創出に貢献している。

(株)四万十ドラマが指定管理者を務める「道の駅とおわ」の様子

取組のキーパーソン・キーセクション

株式会社四万十ドラマ
代表取締役 **畦地履正**さん

畦地さんは、(株)四万十ドラマ設立当初に職員として採用され、「四万十川に負担をかけないものづくり」という理念を大切にしながら事業を成長させてきた。現在は、(株)四万十ドラマの経営に当たるとともに、培ってきたノウハウに基づき、全国各地の農山村地域における地域資源活用ビジネスの支援も行っている。

コンタクト先 株式会社四万十ドラマ
〒786-0535 高知県高岡郡四万十町十和川口62-9 TEL 0880-28-5527
E-mail info@shimanto-drama.jp URL http://www.shimanto-drama.jp/

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
細越ホタルの里	16	青森県	青森市	集落全世帯がホタルの里の会を結成、関係団体と連携し再生活動
鹿島台シナイモツゴの郷	25	宮城県	大崎市	シナイモツゴの郷に里親制度や郷の米つくり手の会などを立上げ
刺巻水ばしょうの郷	28	秋田県	仙北市	地域集落による水芭蕉群生地の維持保全と地域活性化の取組
西鬼怒川	34	栃木県	宇都宮市	グラウンドワークの仕組みによる農村の生態系の保全と環境教育
里山文化園	39	埼玉県	ときがわ町	町が住民協力の下、保全目的で「里山文化園」を指定し野外博物館へ
柏崎・夢の森公園	54	新潟県	柏崎市	里山復元をテーマとする公園を開設、市民と協働で多様な活動
東山の森	72	愛知県	名古屋市	市民・企業・行政の協働で都市の里地里山を共有の財産として保全
津田・穂谷・尊延寺地区	90	大阪府	枚方市	地権者、市民、行政が地区単位で連携し、里山保全・整備活動
六甲山東お多福山	94	兵庫県	神戸市	複数の市民グループの協働によるススキ草原の再生事業
ハイヅカ湖地域	114	広島県	庄原市	多様な主体の参加により、水源地域の生息環境保全と地域活性化
蕨野の棚田	130	佐賀県	唐津市	伝統的な「手間講」に加え、交流による棚田保全支援の仕組み整備

上ノ原「入会の森」(群馬県みなかみ町)

基本情報

所在地		群馬県みなかみ町藤原地区
主な取組内容		上下流連携による茅場の再生・管理・利用を進め、「現代版入会」の仕組みづくり
実施体制	中心的主体	森林塾青水(下流域の住民を中心とする任意団体)
	連携主体等	地元住民(藤原地区)、企業(会員及び賛助会員)、みなかみ町役場
生態系タイプ分類		ミズナラ林
地域区分		奥山周辺
環境タイプ		二次林、草原、小川・水路

取組内容

群馬県みなかみ町藤原地区の上ノ原(元・茅場としての入会山)は、地元住民による草地の共同利用・管理が行われていたが、茅葺屋根や農耕馬用の飼料等の需要がなくなり放置されたまま森林化が進んでいた。

平成2年に発足した「森林塾青水」は、東京や千葉・埼玉といった利根川下流部の都市住民を中心とする市民団体であり、水源地域に当たる藤原地区住民ならびに町役場関係者と連携して次のような活動に取り組んでいる。

1. 茅場の再生と活用：春の野焼き、秋の茅刈り(ススキは重要文化財の茅葺材に供給)、侵入樹木の除伐
2. 生物多様性の保全：モニタリングサイト1000への参加と生き物調べ・観察会の継続実施
3. 古道の再生と活用：昔の生活道や木馬道(キンマミチ)を、自然ふれあい楽習や癒しの場として再生
4. 古民家の再生と活用：空家となっている古民家を再生し、教育旅行や山村文化体験の場として活用
5. 流域コモンズの構築：水源地域の環境資源を流域のみんなで持続的に利用・管理する仕組みの構築

草地管理活動の様子
(上左：野焼き 上右：刈り取ったススキによる国指定重要文化財の修復 下：生きもの調べ)

取組の特徴

POINT 1 地元と外部の協力・連携を実現するための体制づくり

下流部の市民団体と上流部の地元関係者との連携によるフィールドの管理と利用

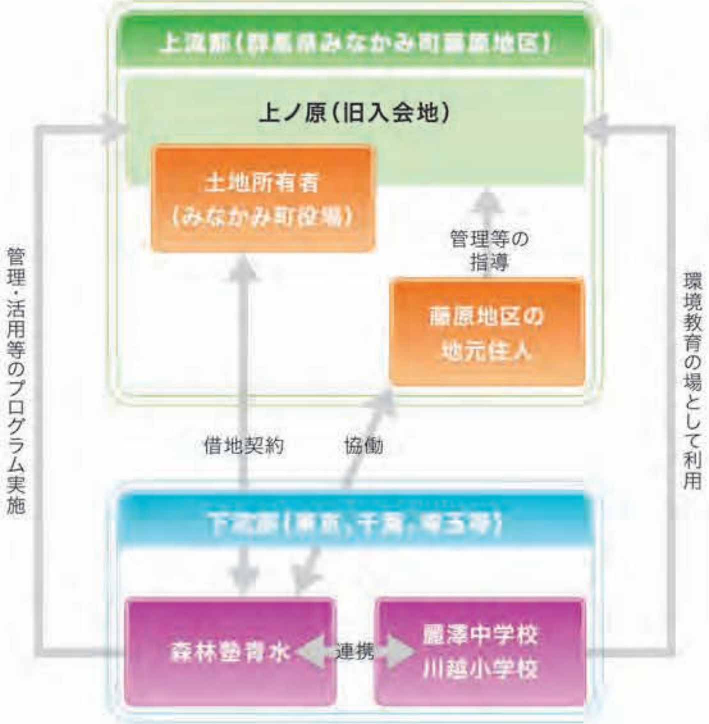
森林塾青水の活動の原点は「飲水思源」(水を飲んで上流部を思う心)であり、設立当初から利根川源流域に位置する藤原地区との協働による「『現代版入会』の仕組みづくりによる里地里山環境の再生と地域活性化」を目標としている。

森林塾青水は、このような考え方に基づく取組のフィールドとして、みなかみ町役場から上ノ原にある21haの町有林(旧入会地)を借り受けている。また、取組の当初から地元住民の指導・協力を受けるなど、地元住民との良好な関係づくりに努めてきた。

このような体制に支えられ、上下流連携による取組が10年以上にわたって継続している。

フィールドの看板

主な関係者間のつながり



POINT 2 地域内外からの多様な能力の結集による自然資源管理

計画と伝統的な智恵・技術・文化との融合による地域特性と調和した自然資源管理

上ノ原は、ススキ草地を中心に、ミズナラ林、水辺、湿潤地などを含む多様な要素で構成されており、そのことが多様な野生生物の生息・生育を可能としていることを踏まえ、一律に野焼きや茅刈り等の管理を行うのではなく、ゾーン別の管理・育成方針や中長期的計画等からなるグランドデザインを策定した上で、それに沿った毎年度計画に基づいて活動を推進している。

その一方で、計画に基づく個々の活動においては、地元住民が継承している草地管理技術や行事などの伝統的な智恵・技術・文化を取り入れることにより、地域特性と調和した自然資源管理を実践している。

年間活動計画(2011年度)

4月	森林塾青水総会&セミナー「ポスト COP10:生物多様性保全のための地域戦略のあり方」 第1回講座「コモンズ村・ふじわら」:野焼き、侵入木除去、「山の口明け」行事、キノコ原木玉切りと菌打ち
5月	第2回講座「コモンズ村・ふじわら」:侵入木除伐、生き物調べと外来種除去、フットパス歩き 麗澤中学「樹木観察会」
6月	第3回講座「コモンズ村・ふじわら」:除伐、初夏の生き物調べ、フットパス歩き、外来植物の除去
7月	自然楽習:麗澤中学校「水源の森フィールドスタディ」 自然楽習:川越小学校「里山探検隊」
8月	第4回講座「コモンズ村・ふじわら」:ススキの青刈りとマルチ利用
9月	第5回講座「コモンズ村・ふじわら」:初秋の生きもの調べ、キノコ教室、お月見と野点 東京「学習会」①開催
10月	第6回講座「コモンズ村・ふじわら」:茅刈り講習・検定会、秋の生きもの調べ、キノコ原木
11月	第7回講座「コモンズ村・ふじわら」:茅刈り&茅の搬出、割り薪づくり、「山の口終い」行事 東京「学習会」②開催
1月	東京「学習会」③開催
2月	第8回講座「コモンズ村・ふじわら」:かんじき雪原散策、郷土食「ぼた」づくり

※月1回第1水曜日「幹事会」開催

取組の成果

- ススキ草地とミズナラ林を中心に、水辺、湿潤地などを含む多様な要素で構成される「里山としての原風景」が回復しており、また、そこに生息する多様な野生生物による豊かな生物多様性が回復し保全されている。
- 刈り取ったススキが国指定重要文化財の修復に利用されたり、古道や古民家再生の活動が流域市民参加型で行われるなど、地域活性化に資するとともに地域の伝統的な知恵・技術・文化が再認識され、その継承・活用に向けた機運と新たな取組が生まれている。
- 上下流連携による活動が10年以上にわたって継続するなかで、水源地域の自然・環境資源の持続可能な利用・管理を支える「新たなコモンズ」(流域コモンズ)の仕組みづくりの事例として注目を集めるようになり、表彰等の社会的評価を受けている。

取組のキーパーソン・キーセクション

森林塾青水

森林塾青水は、東京や千葉・埼玉といった利根川下流部の都市住民を中心とする市民団体・NPOである。「飲水思源」を合言葉に、そして「楽しみながら良い汗をかく」をモットーに、藤原地区の住民ならびにみなかみ町役場や関係者と協働して、上ノ原の入会地としての歴史・文化の継承、ゆたかな生物多様性と原風景の保全、子供たちへの環境教育の場としての活用などをはかりつつ、生態系サービスを持続的に享受する仕組みづくりに取り組んできた。今後、地域資源の今日的利用の道を拓きつつ、地元ならびに町役場と流域関係セクションの参画による現代版入会(流域コモンズ)を構築するにあたって、中核的活動を担う組織である。

コンタクト先 森林塾青水 幹事 浅川潔(事務局長) 〒104-0043 東京都中央区湊1-2-3プロスペリテ八丁堀301(有)コミュニティデザイン気付
TEL 03-6228-3503 E-mail info@commonf.net URL http://commonf.net/

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
突哨山	13	北海道	旭川市	カタクリ群落保全から公有地化した里山で、NPOと共に通年利用を工夫
ブナの実塾	30	山形県	舟形町	山村の自然環境や生活文化の総合的かつ広域的な保全・再生活動
湯本地区	31	福島県	天栄村	大学・集落連携で再生エネルギー利用とエコミュージアムを推進
船橋市北部地区	42	千葉県	船橋市	NPOが森林所有者と施業の委託契約をし、整備を進める
都立野山北・六道山公園	47	東京都	武蔵村山市	民有地を含む広大な都立公園で指定管理者が多様な関係者間を調整
横沢入里山保全地域	48	東京都	あきる野市	地域住民が行政の委託により里地里山管理と環境学習指導
生田緑地	50	神奈川県	川崎市	市街地の中の里山的自然を行政と市民の協働で保全、活用
藤野町佐野川の里山	51	神奈川県	相模原市	大学、専門家などの協力で都市交流を進め、地域産業で里山保全
秦野地域の里地里山	52	神奈川県	秦野市	里山ボランティアを募集し養成研修、参加しやすさを工夫
ライオン山梨の森	57	山梨県	山梨市	企業が地元と提携して維持管理労力を提供、自然体験の場にも活用
朽木針畑の里山	80	滋賀県	高島市	企業、NPOの特徴を活かし里山の手入れや体験学習、情報発信
毛原の棚田	82	京都府	福知山市	交流事業で応援団を作るとともに府の制度により企業が森づくり活動
綾部市域の里山	83	京都府	綾部市	多様な農業体験・里山体験のプログラムを整備し、Iターン促進
西山地区	86	京都府	長岡京市	古くからの筍の名産地で多様な主体が連携して竹林保全の活動
神於山地区	89	大阪府	岸和田市	里山荒廃防止のため市民、活動団体、企業、漁協、行政が協議会
三草山	92	大阪府	能勢町	トラスト地において、チョウの保全のためにナラガシワをはじめとする落葉広葉樹林の管理を行い、里山環境を維持
甲山グリーンエリア	95	兵庫県	西宮市	行政、専門家、企業、NPOが連携・協働して都市近郊の農地森林保全
山野草の里	100	奈良県	桜井市	農家・活動団体・企業・行政が連携し、産品づくりを通じて荒地復旧
芋谷川流域の棚田	103	和歌山県	橋本市	活動チームが棚田の耕作放棄地を再生、新旧住民交流の場ともなる
西条地区	115	広島県	東広島市	地元酒造協会の基金を運用し、市民や大学の連携で里山保全活動
枌所の里山	121	香川県	綾川町	里山オーナー制度に参加した借主らが里山保全の自立的活動
阿蘇草原地域	133	熊本県	阿蘇市、小国町、高森町、南小国町、産山村、西原村、南阿蘇村	野焼き、放牧、採草維持のため支援ボランティアが活躍
飯田高原	137	大分県	九重町	地元行政、企業、農家、NPOが自然学校を軸に協力して里山保全
椿山	143	沖縄県	大宜味村	自然を活かした地域づくりを目指す活動団体が農村と都市交流を通じツバキ類を保全

取組の手法⑥-a：伝統的な里山管理手法の再評価と技術の継承

高安地区（大阪府八尾市）

CASE No.11

基本情報

所在地		大阪府八尾市高安地区
主な取組内容		伝統的水管理法の池干し再現により、希少種生息環境を再生
実施体制	中心的主体	NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会（地元住民が約半数を占める。）
	連携主体等	環境アニメイティッドやお（市民・事業者・教育機関・行政のパートナーシップ組織）に所属する各種団体
生態系タイプ分類		クヌギ・コナラ・アカマツ林
地域区分		都市周辺（平地・盆地・丘陵地）
環境タイプ		水田、畑、小川・水路、ため池、人工林

取組内容

大阪近郊の生駒山地の高安山西麓に位置する八尾市高安地区は、古くから谷水と湧水を導水・貯水したため池を利用した農業が営まれ、宅地開発によって農地が減少した今日においても数多くのため池が残されており、そこにはニッポンバラタナゴ（環境省レッドリスト:絶滅危惧IA類）に代表される豊かな生物たちが息づいている。

NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会（以下、「研究会」と呼ぶ。）は、平成10年に自然保護関係者と高安地区の農家が協力して設立された団体である。

研究会は、保護池における水生生物の保護・調査活動や環境教育に取り組むとともに、ため池の生態系を支える地域の水循環の健全化を図るために、八尾市内で活動する様々な主体（「環境アニメイティッドやお」の所属団体等）と協力しながら、伝統的なため池管理手法である「ドビ流し」の復活や、上流の森林整備などに活動の幅を広げてきた。

上：研究会が管理している保護池
左：ニッポンバラタナゴ

取組の特徴

POINT 1 生態系を支えてきた伝統的な管理手法等の再生

ため池生態系の保全を出発点とした「ドビ流し」再生や森林整備への展開

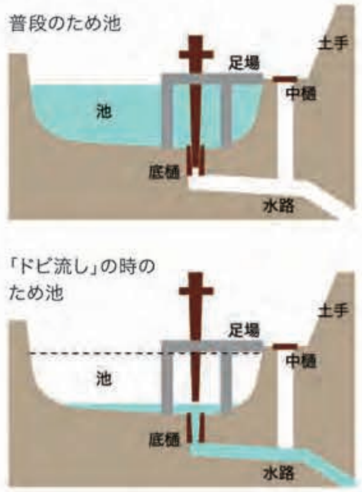
ため池の生態系を回復するためには、水質浄化が大きな課題であったが、浄化槽による水質浄化だけではニッポンバラタナゴが産卵するドブガイが繁殖しないことがわかった。

そこで、かつて地域の農家が行っていた、池底の樋（排水口）を開けて溜まったヘドロを流す「ドビ流し」を定期的に行うこととし、その結果、ニッポンバラタナゴやその産卵母貝となるドブガイの生息状況が改善された。

その後、ため池が涸れたことをきっかけとして、ため池の水量の安定化を図るため、上流に位置する高安山の雑木林や人工林の下草刈り、間伐をなどの森林整備を行うこととなった。

「ドビ流し」の概要

- 高安地区では、農業開発の本格化とともに、「共有池」が築造されるようになり、個々の農家による水管理と併存する形で、複数の農家の共同による水管理が行われるようになった。
- 共有池では、谷水が不足する夏以降に、水質維持と下流の田畑への土壌改良を目的とした「ドビ流し」が行われるようになった。また、地域の住民たちは、この作業で獲れる魚や貝を食材として利用してきた。
- 「ドビ流し」（池干し）をすることで、ため池の還元泥が酸化泥に変化し、ランソウ類の繁殖が抑えられ珪藻類が繁殖するとともに、溶存酸素量が十分確保された良好な水質が維持される。
- こうした環境には、珪藻類をエサとするイシガイ科二枚貝、エビ類、ヨシノボリやタナゴ等の小魚の生息に適しており、「ドビ流し」を通じて生物多様性が豊かな水辺空間が形成・維持されてきた。



POINT 2 里山管理を次世代に継承するための取組

地域の子供たちや若手研究者を巻き込んだ「人づくり」

研究会の代表理事である加納義彦氏は、私立清風高校の理科教師でもあり、研究会の設立以前から生物部の生徒たちとニッポンバラタナゴの研究を行っていた。

研究会の設立後は、清風高校の生徒たちに加えて、地元の中高安小学校、北高安小学校、高安中学校の生徒が参加する「高安みどりの少年団」を結成し、ため池や森林での生物観察・調査、森林の整備と炭焼きの作業などの環境教育を積極的に行っている。

また、清風高校生物部の生徒・OBや、地域の大学・大学院で魚類の研究を行っている学生なども、子供たちのリーダー役を努めながら、高安地域をフィールドとして研究を行っており、研究会の活動が若手研究者の育成の場となっている。

「高安みどりの少年団」「中高安小学校」の活動の様子

取組の成果

- ため池生態系の継続的な調査や、「ドビ流し」の復活などの水質浄化活動によって、ニッポンバラタナゴやその産卵母貝となるドブガイの生息状況が改善されている。
- 伝統的な「ドビ流し」を定期的に行い、その効果を科学的に調査したところ、予想以上に里地里山の生物多様性を維持する働きがあることが明らかになっている。
- 「高安みどりの少年団」の活動への地域の小中学生の参加や、若手研究者の参加などを通じて、次世代の里山管理を担う「人づくり」が進められている。
- ニッポンバラタナゴの保護やため池保全を契機として、市民・事業者・教育機関・行政のパートナーシップによる環境保全活動が広がっている。

取組のキーパーソン・キーセクション

NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会
代表理事 加納義彦さん

加納さんを中心に始まった研究会の活動の対象は、当初のニッポンバラタナゴという生物種の調査研究に始まり、その生息場所である「ため池」の保全、さらには「ドビ流し」や森林整備を通じて「河川」や「森林」へと広がり、今日では地域の多様な主体や次世代を担う子供たちとの協働による「地域づくり」に発展している。

コンタクト先 NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会
〒581-0872 大阪府八尾市郡川4-28 TEL 072-943-5771
E-mail n_baratanago@yahoo.co.jp URL http://n-baratanago.o.oo7.jp/

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
荒川高原牧場	20	岩手県	遠野市	歴史的に維持されてきた牧の景観保全、湿地保全
温海地域	29	山形県	鶴岡市	焼畑による循環型農林業と、温海カブの地域ブランド化に向けた取組
三富新田	37	埼玉県	所沢市	伝統的畑作農業によるモザイク的土地利用と循環型資源利用の継承
図師小野路歴史環境保全地域と隣接地	46	東京都	町田市	地元農業者が都の指定地を管理し、環境保全型農業の技術指導
山熊田地区	55	新潟県	村上市	焼畑のカブ、しな布など里山の技術を活用した「生業の里」を設立
こもろミズオオバコビオトープ	68	長野県	小諸市	ミズオオバコの生育環境保全に地域固有の水田農法
白王・円山	78	滋賀県	近江八幡市	琵琶湖の内湖「西の湖」でのヨシ産業をはじめとする文化的景観の伝承
保津地域	85	京都府	亀岡市	パートナーシップによる用水路管理で産業と希少種保護を両立
弘川寺歴史と文化の森	93	大阪府	河南町	地元農家の指導で炭焼き・薪の生産、販売を復活
北摂・黒川の里山	97	兵庫県	川西市	輪伐による薪炭材の採集、炭焼き、販売で、多様な生息空間を維持
孟子里山公園	102	和歌山県	海南市	耕作放棄農地をビオトープ化し、無農薬米・ソバを栽培、販売
田辺の硬葉樹林	104	和歌山県	田辺市	硬葉樹二次林における、炭焼き技術の継承
隠岐・西ノ島	110	島根県	西ノ島町	「牧畑」の伝統を引き継ぎ、肉用牛馬の放牧と畜産振興を進める
秋吉台地域	117	山口県	美祢市	石灰岩地帯の体験農園で、伝統的なドリーネ耕作を試行
千俵蒔山	132	長崎県	対馬市	集落行事である野焼きを復活、地域固有種などの生息環境も保全
宇納間地区	140	宮崎県	美郷町	伝統的な里山利用である木炭生産の継続による里山景観の維持

取組の手法⑥-b：現代の里地里山に適用可能な持続可能な資源管理手法の確立

白王地区（滋賀県近江八幡市）

基本情報

所在地		滋賀県近江八幡市白王町
主な取組内容		獣害対策とバイオマス利用に放棄田・荒廃樹林を整備し、牛を放牧
実施体制	中心的主体	白王町自治会、NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会
	連携主体等	近江八幡市、滋賀県、滋賀県立大学　等
生態系タイプ分類		アカマツ林
地域区分		中山間地
環境タイプ		二次林、水田、畑、小川・水路、池沼・湿地、ため池、人工林

取組内容

滋賀県近江八幡市の北部に位置する白王町では、平成3年頃からイノシシによる農作物被害が目立ち始め、個々の農家が自己流で対策を開始したが、地域全体の問題を解決するには至らなかった。その後、さらに被害が増加したことから、平成15年の「イノシシ対策研修会」の開催をきっかけに地域ぐるみの対策が開始され、平成17年には防護策の設置、林縁部の草地管理、野菜くずの放棄防止などが実施された。

さらに平成18年には、地域住民、NPO、市、県、大学などの連携体制により、イノシシ対策を起点として、景観の保全、木質バイオマスの利用、畜産振興等に視野を広げた「白王里山再生プロジェクト」が開始された。

このプロジェクトでは、農地沿いの山林を伐採・間伐し、耕作放棄地を含む区画への繁殖和牛2頭の放牧が行われている。これらの作業によって発生した木材は、NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会や地域住民が燃料として利用している。

上：活動場所の全景
下：現地の説明看板

取組の特徴

POINT 1 新たな資源管理手法の導入に必要な人材等の確保

地域住民、NPO、市、県、大学の連携による活動体制の構築

獣害対策を目的とする森林の伐採・間伐と家畜放牧は、以前から滋賀県農業技術振興センターによって試験研究が行われていたものの、先行事例がほとんど存在しなかったため、白王町で実践するためには地域外からの技術協力が必要であった。また、新たな取組を開始するためには資金や広報等の面からの支援も必要であった。

「白王里山再生プロジェクト」では、地域住民の意欲に応える形で、森林管理・利用の技術を持つNPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会、技術協力を行う県関係機関、広報等の支援を行う近江八幡市などが協力することにより、新たな取組を開始することができた。

「白王里山再生プロジェクト」の活動体制

行政支援・広報
- 近江八幡市農政課
- HOT！TV（ケーブルテレビ）

モニタリング調査
- 滋賀県立大学
- 県農業技術振興センター

中心的活動主体
近江八幡市白王町自治会
NPO法人 おうみ木質バイオマス利用研究会

行政支援・技術指導
- 県畜産課
- 県畜産技術振興センター
- 東近江地域振興局環境農政部

資金提供
- 社団法人 国土緑化推進機構（緑の羽基金）

POINT 2 新たな資源管理手法の継続のための役割分担

連携による初期整備から地域住民を主体とする日常管理への移行

森林の伐採・間伐と放牧は新しい試みであったため、取組の当初は、NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会が中心となって森林伐採を行うなど、地域外の主体が積極的な支援・協力を行った。

その後、イノシシによる農作物被害減少等の効果が現れたことによって、地域住民の意識がさらに高まり、現在では地域住民が主体的に日常管理を行い、関係者が適宜支援・協力を行うという状態に移行している。

放牧に関する作業の分担及び内容

作業	分担	内容
放牧地整備	・地域住民 ・NPO ・県農業技術振興センター	・NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会と地域住民が協力し、伐採や間伐等の作業を実施。 ・放牧地は水田を守るように山側の耕作放棄地と伐採間伐した林間に設けられ、1年目（平成18年）は50a、その後拡大して平成20年には約100aとなっている。 ・放牧地は太陽光発電を電源とする簡易電気柵で囲い、湧水を利用した水槽、スタンチョン（牛の首かせ）、鉱塩台を設置し、立木を日（雨）よけ小屋代わりに利用。
放牧準備	・畜産農家 ・地域住民	・舎飼いの繁殖和牛を、屋外飼育や電気柵に慣れさせるため、畜産農家の牛舎近くに馴致場を設置し、放牧馴致を実施。
家畜の日常管理	・地域住民	・放牧頭数は繁殖和牛2頭で、初夏から秋に放牧。 ・日常管理は集落で実施され、当番制で牛の観察、日誌記帳等が行われている。 ・飼料は濃厚飼料を1日1～2回、ドンブリ茶碗に1杯ずつ給与し、それ以外はササを中心とした野草である。

上：放牧地整備の様子
中：放牧された繁殖和牛
下：地域住民による観察の様子

取組の成果

- 森林伐採・間伐と放牧によってイノシシによる農作物の被害が著しく減少したことに加え、長期的には繁殖和牛の放牧による畜産振興の効果も期待されるなど、地域の農業振興に寄与している。
- 森林の伐採・間伐や放牧が行われたことにより、林床や耕作放棄地の環境が改善し、植生の復活による生物多様性向上や、見通しの良い快適な景観の回復といった効果が得られている。
- 取組を進める中で地域住民の意識が向上し、地域の森林や農地を共有財産として守っていこうという気運が高まり、地域住民が主体となった活動が現在も継続している。
- 先進的な取組事例として様々な表彰等を受けている。また、滋賀県内への展開が期待されるモデル的取組として注目されている。

取組のキーパーソン・キーセクション

近江八幡市白王町の地域住民（写真上）
NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会（写真下）

現在の「白王里山再生プロジェクト」は、近江八幡市白王町自治会、近江八幡市白王町農事改良組合を始めとする地域住民が自主的に進めており、それに対してNPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会などの地域外の協力者が支援・協力を行っている。

コンタクト先① 近江八幡市白王町農事改良組合 西川進
〒523-0803 滋賀県近江八幡市白王町806

コンタクト先② NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会 事務局 寺尾
〒522-0081 滋賀県彦根市京町一丁目6-17 TEL 0749-27-5105
E-Mail info@ombk.info URL http://ombk.info/

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
生出地区	23	岩手県	陸前高田市	木炭製造の集落の歴史を背景に、木炭発電など新しい技術開発も
浦高百年の森	40	埼玉県	寄居町	高校同窓会が土地を借りて多様な森林を整備、環境教育にも活用
船木地区	87	京都府	京丹後市	バイオガス発電と農畜産業の連携、民間企業が発電施設を管理運営
本城特別緑地保全地区	127	福岡県	北九州市	定期的なボランティアの参加で竹林伐採、竹の利用法も研究し実用化
笠原地区	129	福岡県	八女市	大学、活動団体の支援により、人工林の林種転換等で里山景観を回復
綾の照葉樹林	139	宮崎県	綾町	自然林回復の手法を取り入れた管理・復元、多様な主体による協定締結